

## 篠田 丈 アリスタゴラ・アドバイザーズ会長

富裕層の資産運用に広がる誤解  
リテラシー欠如による損失リスク

富裕層の資産運用の現場で最近、誤った投資判断が目立つという。独立系資産運用会社「アリスタゴラ・アドバイザーズ」の篠田丈会長に聞いた。

(聞き手 安藤大介 編集部)

富裕層と接していると、金融リテラシーが乏しい顧客が増えていくと感じる。リスクに対する理解が浅く、断片的な情報に振り回されやすい。

最近目立つのは、この数年で事業を売却し、一気に数億円から数十億円の資産を手に入れた人たちの事例だ。事業を売ったお金でさらに投資をして、もうけている人が多い。しかし、投資に対する知識やリスク感覚が極めて乏しいまま、お金を動かしてしまっている。彼らが投資で重視するのは口コ

ミだ。「このファンドに投資すれば年利15〜20%のリターンは当然」

「年利5%では低すぎる」などの情報が飛び交い、それを根拠に実際に投資をしてしまう。たまたまこの数年は株価や為替の追い風を受け、成功体験になっているのだが、自分たちは金融リテラシーがあり、投資がうまいと錯覚している人が少なくない。長期的な視野に立ったリスク管理の重要性を理解しておらず、相場が下落した際には大損を被る恐れがある。

一方で、大きな資産を持つている顧客に、別の形のリテラシー不足が見られる。「リスクは大嫌いなので、安全にやってほしい」と堅実な資産運用を希望しているにもかかわらず、リスクを避けたい一心で、不適切な投資判断を下してしまうケースだ。ユーチューブなどの断

片的な情報に影響され、投資するのが代表例だ。

顧客の中には、「インフレ対策には金(ゴールド)が有効」「スイス・フランは世界一安全な通貨だ」といった話を耳にし、資産の多くを金やスイス・フランに切り替えた人がいる。ある顧客は、「リスクを取りたくない」と言いながら、ユーチューブを見て、多くの資産をスイス・フランに替え、その後、再び不安になり、円に戻したという。

## 情報発信者にも規制を

彼らは安全にこうとして、いろいろ勉強した上で、スイス・フランや金を購入していた。確かに一つのポジションとしてあり得るが、それが全てであるかのように思い込む。考えている時間軸に誤解がある。長期でリスクを取りた

くないという割には短期で考えてしまっている。

問題は、こうした人たちが、証券会社や銀行などの金融機関を頼ることなく、ユーチューブやSNSなどの情報で買いにいつていることだ。裏を返せば、金融機関側のリテラシー、特に営業担当者の質に対する信頼の低下がある。そもそも相談をする相手と思われていない。証券会社を例に挙げれば、いきなり商品の説明から入る営業スタイルが依然として根強く、顧客に投資の「心構え」を伝えるような接客はあまり見られない。まずは、金融機関がリテラシーを身に付ける必要がある。

日本では、金融教育というと若年層を対象とすることが多いが、実際にはすでに資産を保有している中高年層こそが金融リテラシーを必要としている。苦労して作ったお金を、金融リテラシーがないために失うのは不幸なことだ。

情報発信者の規制にも目を向けるべきだ。ライセンスがなく、専門的な知識を裏付けとしない者が、ユーチューブなどで金融商品を語る現状は、放置すべきではない。少なくとも、発信者の資格や経歴を明示するなど、基本的なルールが整備されるべきだ。



しのだ・たけし

1961年石川県生まれ。85年慶応義塾大学経済学部卒業。日系、外資系証券勤務を経て、2003年BNPパリバ証券株式・派生商品本部長。11年3月から現職。